THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL
2015.8／AUGUST
No.342
JSQCニュース

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1-2-1　日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03（5378）1506　FAX.03（5378）1507
ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1 -トピックス　会員アンケートのお願い
2 -私の提言　“何となく”の見える化と官能評価
2 -ルポルタージュ　第124回関西講演会ルポ
3 -ルポルタージュ　第123回中部講演会ルポ／3月の入会者紹介／JSQC規格頒布のお知らせ
4 -行事案内／論文募集

会員アンケートのお願い

広報委員会委員長　兼子　毅

日本品質管理学会理事会では大久保会長、末岡・椿両副会長のもと、2020年に向けた長期計画を立案すべく、長期計画検討ワーキング・グループを立ち上げ、今後の学会のあるべき姿について議論を重ねてきました。約半年にわたり集中的に会合を持ち、2020年における学会のあるべき姿を実現するためのアクションプラン原案が完成しました。このアクションプランを実行に移すためには、日本品質管理学会「だけ」では不可能で、関係する組織や企業などとの幅広い連携や調整が必要となります。現在精力的に関係各所との調整が行われています。

2千数百名 VS 28万人

長期計画検討の中で、学会の広報体制に関しても議論がありました。学会の正会員数は現在２千数百名、賛助会員企業・組織は約160ですが、たとえば本学会が認定している品質管理検定（QC検定）では累積合格者が28万人に届こうとしています。少なくとも、業務で「品質」や「品質管理」を重要だと考え、それらに関する知識の評価を欲している人たちの人数に対して、学会に参加している人はわずか数%に過ぎないということになります。さらに、製品やサービスの「質」を受け取る顧客まで考えると、学会のカバレッジは極めて小さいと言わざるを得ません。

このような議論の中で、本学会はもっと「非会員」への広報を充実させていくべきではないか、という話になってきました。学会のメンバーに対しては、いままでも、このような講演会やシンポジウムを開催します、など、学会の行っている活動に即した広報が行われています。しかしながら非会員の場合、学会の行事参加などに興味を持っていただける場合もあるのでしょうが、多くの場合は「品質」や「品質管理」、あるいは「品質管理活動の推進」などに関する悩みや疑問、最新の動向などに興味があるのではないでしょうか。それらのいくつかは、学会での活動から最新の情報が得られる場合もあります。たとえば日本科学技術連盟や日本規格協会など、品質管理と深いかかわりのある他法人、他団体から得られるかもしれません。

Webアンケートのお願い（拡散希望）

そこで会員の皆様にアンケートのお願いです。「品質」や「品質管理」、あるいは「品質管理活動の推進」などに携わっている方として、常日頃、どのような情報を得たいとお考えでしょうか。本来であれば、広く「非会員」も含めてアンケートを実施したいところですが、まずは会員の皆様にお願いいたします。2015年８月20日ごろに、学会のメールニュースにて「アンケートのお願い」を送付いたします。当該メールニュースにURLを記載してありますので、クリックしていただき、アンケートにご回答いただきますようお願いいたします。メールニュースの配信は基本的には本学会の会員や行事参加者ですが、アンケートにはどなたでもお答えいただけます。メールニュースを受け取りましたら、同僚の方や取引先の方などにご転送いただけると幸いです。このアンケート結果の集計をもとに、現在の学会Webページのリニューアル、及び、「品質」にかかわるポータルサイトとなるべく改善を続けていきたいと考えています。

品質や品質管理にかかわる人たちのための会

日本品質管理学会という名称は、もともと「日本（における）品質管理学（樹立を目指す人たちの）会」であったはずなのに、いつの間にか「学会」という言葉が独り歩きし、何となく近寄りがたいイメージを持たれてしまっていると思います。学会の英語名称は「Society」ですが、共通の目的や利害を持つ個人が自分の意志で参加する会、というような意味です。私たちは、品質や品質管理にかかわる人たちを、何らかの形で緩やかに組織化していく必要性や重要性を感じています。今回のアンケートは、そのきっかけとなるものです。ぜひとも多くの方のご協力をお願いします。

● 私 の 提 言 ●

“何となく”の見える化と官能評価

金沢工業大学感動デザイン工学研究所　**神宮　英夫**

官能評価（sensory evaluation）は、原材料の受け入れ検査と製品の出荷検査として、品質管理の一部を担ってきた。さらに、センサー開発や工程の縮減など、その役割は多岐にわたっている。最近では、ものづくりの源流部分におけるコンセプトの特定など、大きく活用範囲が広がっている。

しかし、基本的には言葉を介して評価が行われるため、特に源流部分での活用に際しては限界がある。言語化できる側面しか、官能評価では明らかにすることができない。したがって、他社との差別化を図って、新たなものづくりの手がかりを得ることはなかなか難しい。

製品の使用者は、常に品質要素を意識して言語化できているわけではない。“何となく”その良さを感じて、購入したり、企業イメージを形成したりしている。この“何となく”が見える化できて、品質要素に繋げることができれば、他社とは違うものづくりの可能性が出てくる。

言葉のような顕在的な側面ではなく、この“何となく”は、本人も気がつかない潜在的な側面の影響を受けている。この潜在性を見える化するために、従来は、生理機能や脳機能の測定が行われてきた。しかし、測定に際しての身体的拘束や高価な機器など、多くの問題を含んでいる。はたして、限定された状況で測定された生理・脳機能測定の結果が、信頼できるものとなっているのであろうか。

もしも、言葉を介した官能評価結果の解析や評価実験状況を工夫することで、“何となく”の見える化ができ、品質に繋げることができれば、官能評価の可能性がさらに大きく広がることになる。

このような考えのもとで、官能評価結果をグラフィカルモデリングでの解析からキー品質を特定して、ローストビーフのリニューアルや若者向けのカップ酒の開発を行ってきた。また、味の記憶実験を工夫して、「記憶に残るサイダー」の開発、さらに、共分散構造分析を使用して、化粧品の高級感を解明して、品質提案を行ってきた。

今後も、“何となく”の見える化によって、他とは違う製品開発の可能性を追求していきたい。

第124回関西講演会ルポ

『イノベーションの起点となる「行動観察」と「ビッグデータ」』

5月21日㈭、大阪大学中之島センターにおいて関西支部主催の第124回講演会が開催され、56名の参加者が標題のテーマについて熱心に聴講した。

1つ目の講演は、大阪ガス行動観察研究所㈱　事業本部エグゼクティブリサーチャー　小野泰氏から『現場起点のイノベーション手法、「行動観察」とは』と題して説明があった。行動観察により、本人すら気付かず、言葉に出来ない行動を科学的に観察・分析することで、潜在的なニーズ（リスク、スキル）を可視化し、インサイト（本質と思われる事項）が導出され、イノベーションにつなげることができる。そのため、マーケティングや業務・安全の改善活動に有用である。なお、行動観察は、本質を見抜くスキルと知見を身に付ければ誰でも出来るものの、①自分の価値観は一旦捨てる、②様々な観点から事実を見るという2点からシンプルではあるが実践することは難しい。

2つ目の講演は、㈱村田製作所　モノづくり技術統括部モノづくり強化推進部シニアマネージャ　宮森誠氏から『新製品の市場への早期投入を支えるアナリティクス』と題して、EDP（電子データ処理）システムから取得したビックデータの活用事例の紹介があった。

マイニングを定着させるための組織と推進体制と仕掛け、業務直結・解析手法・情報技術の連携体制の重要さ、課題の抽出とデータの収集・加工、解析の進め方などについて説明があった。成功の鍵は、生産工程データ活用の目的を製造現場の改善とし、データを使うことから考えるのではなく、データ活用で問題が解決できるのかを考えること、また、分析組織ではなく改善活動組織として考えることにあることが示された。なお、目的が改善であることから、「現場・現物・現認」と技術的な知見又は熟練者のノウハウで解決できれば大がかりなデータ活用まで進む必要がないことを前置きされていた。

いずれの講演も、実例を交え、わかりやすく大変貴重な内容で、意義あるお話であった。

坂根　誠（㈱ＧＳユアサ）

第123回 中部講演会 ルポ

『ホントは役立つ問題解決法』

TQMコンサルタント
技術士　安藤　之裕　氏

中部支部主催の標記講演会は、2015年5月29日㈮名古屋国際センター別棟ホールにて開催された。定員を大幅に超える171名が参加され、QCストーリーによる問題解決の意義を再認識し、実践の意識を高める貴重な機会となった。

TQMは1980年代から多くの企業で導入されたが、問題解決力・課題達成力の欠如により事業として成果が出ずに失敗するケースが多いというイントロの後、事例研究に入った。

まず、ある宿泊施設での朝食会場の混乱状況が紹介された。様々な試みが行われるが事態は好転しない。その状況に対して「あなたが支配人ならどうするか？」という設問が設けられ、グループ討論を踏まえて全員が回答したが、その結果に対する解説に参加者からは驚きの声が挙がった（この先は会場で…）。

講演テーマの問題解決型QCストーリーの考え方では、誰もが知っているはずの基本の重要性を強調された。また、体系的アプローチが必要となるQCストーリーに加えて、皆で考えればすぐ解決できるKKDと、ちょっと考えたらすぐ解決できるJDIという問題レベルに応じた解決法を解説された。本当にQCストーリーによる問題解決が必要な場合は、異常パターンを十分把握した上でアプローチしなければならないが、その異常を迅速に発見できるデータをタイムリーに収集し、即座に責任者に報告できる仕組みづくりや原因追究できる体制づくりが肝要である。その説明は大変分かりやすく参考になった。

最後は、巧みな話術と進行で参加者を終始惹き付けた講演に盛大な拍手が送られた。

船見　晃啓（㈱竹中工務店）

2015年3月の入会者紹介

2015年3月25日の理事会において、下記の通り正会員9名、準会員8名、職域会員1名の入会が承認されました。

（正会員9名）○柴田　紳也（三信産業）○小室　伊作（ファーウェイジャパン）○佐藤　稔康○永倉　克彦○豊嶋　大輔（三菱総合研究所）○芳野　敬三（生活協同組合連合会 コープきんき事業連合）○密　暁子（日本科学技術連盟）○伊藤　義秀（デンソー）○有住悟（リコー）

（準会員8名）○石川　大地・渡辺　史（早稲田大学）○仮屋﨑　真希（東京大学）○鶴岡　靖也・中島　知洋・髙田　健二（筑波大学）○新開　晴仁（中央大学）○菊地　裕（東京都市大学）

（職域会員1名）○宇都　学（電気化学工業）

正 会 員：2125名
準 会 員：63名
職域会員：28名
賛助会員：156社201口
公共会員：18口

事務局からのお知らせ

JSQC規格頒布のお知らせ

この度、下記の成果がまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

JSQC規格 Std 31-001「小集団改善活動の指針」

1. **申込方法：**E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、住所、送付方法、電話番号をご連絡の上お申込みください。

申 込 先：本部事務局　E-mail apply@jsqc.org　FAX 03-5378-1507

2. **資 料 代：**1冊（A4判45頁）会員1,760円（税込み）非会員2,200円（税込み）
送　　料：（冊子小包）1冊215円、（DM便）1冊170円、他多数の場合、事務局までご連絡ください。申込みと同時に下記宛お振込みください。

振込み先：一般社団法人 日本品質管理学会
三菱東京UFJ銀行　渋谷支店　普通預金　４３１３８２０

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

行 事 案 内

●JSQC規格「小集団改善活動の指針」講習会（本部）

テーマ：小集団改善活動を推進する
日　時：2015年8月18日㈫13：00～17：00
会　場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル　2階講堂
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270818

●第108回研究発表会（中部）

日　時：2015年8月26日㈬
研究発表会　10：30～18：10
懇親会　18：30～20：00
会　場：名古屋工業大学
参加費：会員4,320円（締切後4,860円）
非会員6,480円（締切後7,020円）
準会員2,160円・一般学生3,240円
※当日払いは別金額となります。
［懇親会］
会員・非会員 3,500円
準会員・一般学生 2,500円
申込締切：8月19日㈬
申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。
詳　細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270826_3

●第95回クオリティトーク（本部）

テーマ：技術者のイノベーション能力を高める思考テクニックI-TRIZ
ゲスト：上村輝之氏
（アイディエーション・ジャパン）
日　時：2015年8月26日㈬18：00～20：30
会　場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室
定　員：30名
参加費：会員3,500円　非会員4,500円
準会員・一般学生2,500円
（含軽食・当日払い）
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

詳　細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270826_2

●第154回シンポジウム（本部）

テーマ：日本企業の海外進出とマザー工場の果たすべき役割・意味
日　時：2015年9月8日㈫10：00～17：00
会　場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル　2階講堂
定　員：120名
参加費：会　員 5,400円（締切後 5,940円）
非会員10,800円（締切後11,880円）
準会員2,700円　一般学生3,780円
※当日払いは別金額
プログラム：
基調講演「日本企業におけるマザー工場の役割」
山口隆英氏（兵庫県立大学）
事例1：「グローバル化における本国拠点の変化」
長谷川功氏（ダイキン工業）
事例2：「コマツにおけるマザー工場の役割と意味（仮題）」
藤田直樹氏（コマツ）
事例3：「リコーにおけるマザー工場の役割と意味（仮題）」
石原雅之氏（リコー）
事例4：「日産自動車におけるマザー工場の役割と意味（仮題）」
松元史明氏（日産自動車）
パネルディスカッション
リーダー：光藤義郎氏（文化学園大学）
申込締切：9月1日㈫
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270908

●第156回シンポジウム（関西）

テーマ：顧客満足のための新たな時代の新たな商品・サービスとは～新たな顧客価値を提供し続ける組織の実現のために～
日　時：2015年9月9日㈬13：00～17：30
会　場：中央電気倶楽部 5階ホール
プログラム：
講演1「コマツ中国生産工場“小松山推有限公司”のデミング賞受賞までの取り組みについて」
佐藤真人氏（小松製作所）
講演2「3Mで学んだイノベーションの設計図」
大久保孝俊氏
（スリーエム ジャパン）
パネルディスカッション
司会：太田雅晴氏（大阪市立大学）
参加費：会　員4,000円　非会員6,000円
準会員2,000円一般学生3,000円
※当日払い
申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。
詳　細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270909

●第109回研究発表会（関西）

日　時：2015年9月18日㈮9：30～17：00
会　場：大阪大学中之島センター
参加費：会　員3,000円　非会員6,000円
準会員1,000円一般学生2,000円
※当日払い
申込方法：関西支部事務局までお申し込みください。
詳　細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h270918

●第126回講演会（本部）

テーマ：顧客満足（CS）の科学と品質経営への示唆
講　演：圓川隆夫氏（東京工業大学）
日　時：2015年10月15日㈭13：30～17：00
会　場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル　地下1階講堂
詳細・申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h271015

●第45回年次大会・積水化学工業 京都研究所（本部）発表募集中！

日　時：2015年11月14日㈯
⑴申込期限
発表申込締切：9月7日㈪
予稿原稿締切：10月16日㈮必着
参加申込締切：11月4日㈬
⑵研究発表・事例発表の申込方法
7月送付の発表申込要領をご覧ください。
⑶参加申込
本部事務局までお申し込みください。

行　事　申　込　先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
本　部：TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail：apply@jsqc.org
中部支部：TEL 052-221-8318
FAX 052-203-4806
E-mail：nagoya51@jsa.or.jp
関西支部：TEL 06-6341-4627
FAX 06-6341-4615
E-mail：kansai@jsqc.org